

# 1年2組体育科学習指導案

## 1 単元名 (4/9)

### ボール投げゲーム「ねらってパンパン！」

## 2 指導について

本単元では、的を「ねらって投げる」ことを基本とした運動遊びを通して、投げる動作の基本的な技能を段階的に身に付けることを目指す。単元前半では、

- ① 利き手を高く上げること
- ② 利き手ではない手を前に掲げること
- ③ 利き手とは反対の足を踏み出すこと

の3点を重点的に指導し、正しいフォームで投げられるようにする。また、距離の異なる的を用いて、自分の課題に合った練習を選び、基礎技能を確実に習得する。単元後半では、単元前半で身に付けた技能ポイントを生かし、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）を基にした陣地取り型ゲームに挑戦する。的を正確にねらって陣地をとる面白さを体験し、得点を取る喜びを味わう。また、チームや仲間と協力して作戦を考え、役割を分担する中で、互いに助言し合い、仲間のよさを認める活動を取り入れる

本単元では、基本的な投げの技能の習得を第一の目標としつつ、仲間とともに協力しながら取り組む楽しさ、失敗を乗り越えて粘り強く挑戦する力、そして仲間を思いやる心を育むことを大切にしてい

## 4 研究に関わって

### 研究①に関わって

本時では、三つの練習方法から、児童が自身の技能段階に応じた方法を選んで取り組むことで、「狙ったところに投げる」技能の向上をねらいとする。

#### 【三つの練習課題】

◇近距離からの的を狙って当てる練習

◇中距離からの的を狙って当てる練習

◇実際の距離からの的を狙う練習

段階を踏んだ練習環境を整えることで、児童一人一人が自分のペースで、正しいフォームを意識しながら繰り返し練習できるようにする。このような工夫を通して、児童が「できた！」という実感を得やすくし、自信をもって活動に取り組めるようにする。

### 研究②に関わって

本時では、チーム内での個人練習を中心に展開するが、児童が一人で黙々と活動するのではなく、ペアで関わり合いながら技能の向上を目指すようにする。具体的には、互いの動きを見合ってアドバイスし合ったり、応援の声をかけ合ったりすることで、学び合いの姿勢を育む。また、ボール拾いや準備・片付けの場面でも、相手を思いやる行動が見られるように働きかける。こうした関りを通して、人との関わり方や助け合いの心も育てることをねらう。

### 研究③に関わって

本単元では、児童が自分の技能の高まりを実感できるよう、毎時間のねらいに応じた振り返りを取り入れる。例えば、ボールを投げる距離を測定したり、投げる際のフォームを確認したりすることで、自分の成長を具体的にとらえることができるようにする。

本時では、的に当たった得点を測定する活動を通して、練習の成果を数値として確かめられるようにする。また、単元の前半にも同様の測定を行っており、その記録と比較することで、児童が自身の成長を実感できるようにする。

こうした具体的な振り返りを重ねることで、学習への意欲を高め、自ら学ぼうとする姿勢の育成を図る。

## 6 本時のねらい

自らの技能段階に応じた三つの距離での的あて練習を通して、狙ったところに投げるためのポイントをつかみ、狙ったところに投げることができる。

【知識・技能】

## 7 本時の展開 (4/9)

展開	学習活動	指導・援助
導入	<p>1. 体操・集合・整列・挨拶を行う。 ○「投げる」動作を取り入れたACPを行う。 ・新聞紙ボールキャッチボール ・ボール合戦</p> <p>2. 全体計画会を行う。 ○前時を振り返り、大きなフォームを習得したことを確認する。 ・強く投げられるようになったよ。 ・まだ的にはあたらなかったな。 ○本時では、狙ったところに投げる練習をすることを伝える。 ○前時で学習したポイントを確認する。 ・左手を前に「ぎゅっ」・右手を高く「ぐんっ」・左足を前に「ばんっ」</p>	<p>・素早く集合し、元気に挨拶ができるようにする。 ・前時の振り返りをし、本時の意欲付けを図る。 ・ポイントを伝える際には、児童が動きのイメージを具体的にもちやすくなるよう、オノマトペを活用した言葉かけを工夫する。</p>
展開	<p>課題「ぎゅっ」「ぐんっ」「ばん」をつかってねらったところに、ぼーるをなげられるようになる。</p> <p>○練習の説明を聞く。</p> <p>レベル① 的の近くから投げて、的に当てることを目指そう。</p> <p>レベル② 少し離れた位置からの的を狙って投げてみよう。</p> <p>レベル③ ゲームと同じ距離から、正確に的を狙って投げてみよう。</p> <p>・各チームの用具 ・壁面に掲示する</p> <p>・チーム内でペアを組み、互いの動きを見合いながら練習する。</p> <p>3. 練習タイムに取り組む。 ○チームで段階別練習に取り組む。 ・まだ投げ方に自信がないから、レベル①で練習しよう。 ・レベル③で強く投げる練習をしよう。</p> <p>4. 測定会を行う。 ○チームに分かれて「そくていかい」を行う。 ・的をねらって、一人5球投げてみよう。得点は何点かな。</p> <p>5. 振り返りを行う。 ○記録をロイロノートの振り返り用紙に記入する。 最初の測定時の記録と比較するように伝える。</p> <p>6. 全体会を行う。 ○測定会での結果をもとに振り返りを行う。 ・最初は1球しか当たらなかったけど、2球当たったよ。 ・最初より得点が増えたよ。</p> <p>じぶんにあったコースをえらんで、「ぎゅっ」「ぐんっ」「ばん」をつかってれんしゅうしたら、ねらったところになげることができた。</p> <p>6. 挨拶・片づけを行う。</p>	<p>研① 三つの練習方法から、児童が自身の技能段階に応じた練習方法に取り組めるようにする。</p> <p>・的に当てられている児童には、距離を延ばすなどしてレベルを上げるよう声を掛ける。当たらない児童には、フォームの助言をしたり、レベルを下げるよう促したりする。 ・レベル3で狙った場所に投げられる児童には、次の課題として「強く投げる」ことを助言する。</p> <p>研② 児童同士が声を掛け合ったり、応援・ボール拾いをし合ったりしながら、互いに関わり合って練習に取り組めるようにする。</p> <p>・「3回投げたら役割を交代する」ことをルールにしておく。 ・活動の導入で、「こんな風に応援できるといいね。」と声のトーンや、言葉選びを紹介する。 ・仲間と積極的に関わって活動している児童の姿を価値づける。</p> <p>研③ 「測定会」を位置付けることで、自分の投げる技能がどれだけ伸びたのかを実感できるようにする。</p> <p>・最初の記録と比べてどのくらい伸びたかを考える視点を与え、「投げる」動作の高まりを実感できるようにする。 ・記録が落ちた児童にも、フォームの安定や狙い通りに投げられた実感をもたせ、自身の成長を感じられるようにする。</p> <p>評価規準 技能ポイントを意識して、狙ったところにボールを投げている。 【観察・記録表】</p>
まとめ		

## 2年3組生活科学学習指導案

### 1 単元名

「うごく うごく わたしのおもちゃ」(9/12)

### 2 指導について

本単元は、学習指導要領内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら創り出そうとする。」を受けて設定した。本児童たちは、1年生時にどんぐりや秋の自然を用いておもちゃを作っている。2年生になった今回は身近にあるものを使っておもちゃを作る過程で、「比べる」「繰り返す」「試す」「見つける」「工夫する」「見通す」などの活動の中から、工夫して動くおもちゃを作る喜びや、自分で作った物で遊ぶ楽しさを味わうことを主なねらいとしている。本単元の身近な物とは、紙、空き箱、割りばし、輪ゴムなどである。これらを使って、遊びに使う物を工夫して作ったり、遊んだりすることが主な活動である。

「もっと〇〇したい」という思いをもって活動することを通して、「〇〇だから△△なんだ」という無自覚だった気付きを自覚する児童の姿を目指していく。そのために、各単位時間の繋がりや、評価の観点を明確にした単元指導計画を作成した。また、各授業の導入では、前時との繋がりを確認して、本時の学習内容へと繋げていく。授業の終末では、自覚した気付きをより確かなものにするために、振り返り用のワークシートを通して、前の時間の振り返りが次の時間の目標になるようにつなげていく。

### 4 研究に関わって

#### 研究①に関わって

本単元では、授業の前半で素材にたくさん触れ、様々な動きを体験する中で自分の作りたいおもちゃを考え、という単元構成にしている。はじめは「並べる」「見立てる」といった遊びから少しずつ動きのある「転がす」「飛ばす」「跳ねる」といった遊びに変化をしてきた。経験を重ねる中で、「この転がる動きを使ってコロコロ転がるレースのできるおもちゃを作りたい」「ゴムを使うと高く跳ねることができるからもっと高く跳ねるおもちゃを作りたい」など見本を提示しないことで、児童一人一人が思いをもって試行錯誤しながら改良を重ねることができるようにしていく。飛ばした距離や跳ねた高さを計測できる場を用意し、児童が自分で活用できるような準備を行う。また6月から教師側も素材を集め、潤沢な素材を使って何度も改良ができる場を準備することで、児童の「〇〇にしたい」「もっと〇〇したい」という思いの実現ができるように工夫をした。

#### 研究②に関わって

児童同士が交流しやすいように、動きが似ているおもちゃを作る人でグループをつくり、比べたり、試したりしながら一緒におもちゃを作る活動を行う。仲間同士で教え合ったり、おもちゃを一緒に作ったりする中で、「こうしたらできそうだ。」「〇〇だから△△なんだ。」というおもちゃをよく動かすための工夫や、仲間との交流についてのアドバイスを検討する場を作る。

#### 研究③に関わって

授業の終末では、本時を振り返る活動を行う。おもちゃ作りを通して気付いたことを、振り返りのカードに記入する。また授業の終末で次の時間にやりたいことを記入することで、終末と次時の導入を繋げ、児童が「今日は〇〇する時間。」ということがわかる授業にしていく。振り返りでは、「くらべるくん・はっけんくん・つたえるくん」という3つの視点を児童がもつことで、自分の気付きをより確かなものにしていきたい。

6 本時のねらい

おもちゃをもっとよく動かしたいという思いをもち、友だちのおもちゃの動きと比べたり、他の方法を試したりする活動を通して、自分が加えた工夫とおもちゃの動きに関わりがあることに気付き、おもちゃをもっとよく動くように繰り返し改良することで、作りたいおもちゃに近付けることができる。【思考・判断・表現】

7 本時の展開 (9/12)

	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>1 前時の学習をふりかえり、本時のめあてをつかむ。(1分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わたしは、びよんコップを作ってみて、前の時間よりもっと高く跳ばせるようにしたいな。</li> <li>ぼくは、とことこ車を作ってみて、もっと遠くまで動くような車にしたいな。</li> </ul> <p>2 本時のめあてをもつ。(2分)</p> <p>○振り返りカードを見ながら、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もっとよくうごくように、おもちゃをパワーアップしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の仲間からのアドバイスガードを見直すことで、「もっとこうしたい。」という思いや願いを引き出す。</li> <li>○<u>もっとよく動く</u>のキーワードを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと高く</li> <li>もっと遠く</li> <li>もっと速く</li> <li>など</li> </ul> </li> </ul>
考える	<p>3 どんな工夫ができそうか見通しをもつ。(7分)</p> <p>○おもちゃをもっと～するための視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数をかえてみる。</li> <li><u>大きさ</u>をかえてみる。</li> <li><u>ざいりょう</u>をかえてみる。</li> </ul> <p>4 もっとよく動くように工夫しながらおもちゃを作る。(25分)</p> <p>○同じ動きのおもちゃを作る仲間同士でグループをつくり、一緒に製作する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>びよんコップを、もっと高くとぶようにしたいな。 →わゴムの数をふやしてみたら、もっと高くとんだよ。こんどは、コップのようきをかえてみようかな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>とことこ車を、もっととおくまでうごくようにしたいな。 →<u>ようきのカップ</u>をかえたら、もっとはやくうごくようになったから自分もやってみようかな。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>パッチンジャンプを、もっと高くとぶようにしたいな。 →わゴムの数を2本にふやしたら、もっと高くとんだよ。切りこみばしよをかえたら、もっと高くとびそうだな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ヨットカーを、もっとはやくうごくようにしたいな。 →ヨットのほの<u>大きさ</u>をかえたらもっとはやく動くようになったよ。 ざいりょうをかえたら、もっとはやく動くのかな。</p> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃをもっとよく動くようにするための視点を提示し、見通しをもたせる。</li> <li>ゴムの数を増やす。紙コップの<u>大きさ</u>を変える。容器(ざいりょう)を変える。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ動きのおもちゃを作っている仲間同士でグループをつくり、もっとよく動くようにおもちゃを作る。</li> <li>活動の中で、仲間とおもちゃを<u>比べたり</u>、他の方法を<u>何度も試したり</u>する姿があればそれを認め、繋げていく。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導では、児童がおもちゃの動きと工夫したことの関わりに気付くような問いかけをしていく。</li> <li>「どうして～しようと思ったの。」「〇〇さんのおもちゃは動かなくて困っているけど、どうしてだろう。」などと問うことで、児童の気付きをより確かなものにしていく。</li> <li>おもちゃ作りで手がとまっている児童には、同じおもちゃや似たおもちゃをつくっている仲間に関きに行き、おもちゃ作りのヒントを得られるように声をかける。</li> </ul> </div>
まとめる	<p>5 ●まとめ(5分)</p> <p>自分のおもちゃのどこをパワーアップしたのかを全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前とくらべて〇〇をしたら、おもちゃがもっととおくまでうごいたよ。</li> <li>〇〇をかえたら、おもちゃがもっとたかくとんだよ。</li> </ul> <p>6 振り返りカードを記入し、次回の目標をもつ(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・びよんコップのわゴムをはじめは一つにしていたけれど、わゴムの数をふやしたらもっと高くとぶようになったよ。次は〇〇さんのもっと高くとぶようにしたいな。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>研③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃ作りを通して気付いたことを振り返りカードに書くことで、自分の気付きをより確かなものにしていく。</li> </ul> </div> <p>・振り返りの後に、片付けを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価基準】仲間のおもちゃの動きと比べたり、他の方法を試したりして、おもちゃがもっとよく動くように繰り返し改良している。(振り返りカード)</p> </div>

# 3年3組音楽科学習指導案

## 1 題材名

せんりつの重なりをかんじとろう

教材名

「かね」                      ビゼー 作曲  
「歌おう 声高く」        花岡 恵 作詞 / 長谷部 匡俊 作曲  
「メリーさんのひつじ」    アメリカ民謡

## 2 指導について

本題材では、歌声や楽器の音が重なり合う事で生まれる響きを感じ取り、それを基に、互いの歌声を聴き合いながら歌ったり、旋律や楽器の音が重なり合う面白さを味わいながら鑑賞したり合奏したりする。

3年生において重要な学習の一つであるリコーダーの学習「リコーダーのひびきに親しもう」では、リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図にあった表現をするために必要な音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する基本的な技能を身に付けた。大きなシャボン玉を作るつもりでリコーダーに息を入れたり、タンギングを習得するために、「tu」と言いながら歌ったりするなど意欲的に取り組む姿が多く見られた。

本題材の器楽教材「メリーさんのひつじ」では、鑑賞教材と歌唱教材で学習したことを踏まえて、斉奏と二部合奏それぞれの旋律の重なりが生み出す響きの面白さを感じ取りながら、合奏の楽しさに気付くようにする。リコーダーで二つの旋律が重なる曲に挑戦するのは初めてである。音の重なりを聴き合って演奏するためには、「息の流れや量」「タンギング」に気を付けて、音色をそろえるようにすること、低い音は「トォー」と優しく息を吹き入れるなど、音の高さに応じた息の出しかたや、タンギングの仕方を身に付けるようにする。日頃からペア活動などを取り入れ、聴き合ったり音を合わせて演奏したりする中で、互いの音を聴き合いながらリコーダーを演奏する意識を高めるようにする。また、自分たちの演奏を録音して客観的に聴き、音量のバランスや音色などに気付けるようにしていく。

## 4 研究との関わり

### 研究①に関わって

リコーダーの演奏に困っている児童について、運指表を提示したり、息の流れや量、タンギングなどの技能について、声掛けをしたりする。そして、お互いの音を聴き合いながらペアで演奏する活動では、自信をもって取り組む姿を増やしていきたい。また、どの児童も学びが得られるようにするために、楽譜や学習支援ソフトの活用をする。リコーダーパート1・2の音声を用意し、1パートを流しながら2パートを演奏したり、2パートを流しながら1パートを演奏したりする。あるいは、自分のパートの音を流して演奏したり、音は流さず楽譜を見て演奏したりする。4通りの練習方法を使って自分で選択して練習できるようにする。

### 研究②に関わって

学習支援ソフトの録音機能を使い、自分たちの演奏を聴くことができるようにする。その際、お互いの音を聴き合いながらリコーダーを演奏する意識を高めるようにする。また、録音して客観的に聴くことにより、音量のバランスや音色など、ペアで改善点を発見しやすくする。そして、ペアでさらにより演奏するために意見を出し合い、どのように演奏するかについて意図をもつことができるようにする。

### 研究③に関わって

追究の際に記録した学習支援ソフトの楽譜を使って演奏の発表をすることで、工夫した演奏方法に仲間が気付くことができるようにする。視点が明確になることで、自分たちの演奏がよりよくなるための手立てが分かり、意欲を高めることに繋げる。

## 6 本時のねらい

二つのパートに分かれて演奏する活動を通して、音の重なりと曲想との関わり、それらが生み出すよさや面白さ、美しさに気づき、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。

【思考・判断・表現】

## 7 本時の展開 (5/6)

展開	学習活動	指導・援助
導入	1. 「メリーさんのひつじ」の4拍子のリコーダー1、2の示範演奏を聴く。 ・リズムがそろっていてきれいだった。 ・音が重なってきれいだけど、ちょっと音のバランスがよくなかったと思う。	・示範演奏を学習支援ソフトで聴き、音の重なり合う響きに意識して聴くように声を掛ける。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">重なり合う音のひびきに気をつけてえんそうをくふうしよう。</div> 2. ペアで担当するパートを決めて練習する。 個人で練習する ・最後までできた。・ブレスの位置に気をつけたいな。・音の長さに気をつけたいな。 ペアで練習する ・最後までできたね。 ・(イ)の部分の音の長さに気をつけて合わせよう。 ・最後のファの音の長さに気をつけたいね。 場所を変えてペアで練習する(学習支援ソフトに録音する) ・合わせるのって難しいな。 ・出だしがそろわなかったね。 ・音がうまく重なるように息の量を考えたいね。 ペアでアドバイスしたり、考えを伝えあったりしながら練習する ・ブレスの場所をそろえたいね。 ・二分音符の音をそろえたいね。 ・他のペアに聴いてもらおう。	研① 学習支援ソフトに各パートの音が録音されたカードを送り、自分のパートを聞きながら練習したり、自分のパートとは異なるパートの音に合わせて練習したりすることができるようにする。 ・終わりの音の長さ、付点のリズムを確認する。 研② 音の重なりに気付けるよう録音をする。 演奏についての思いや意図を伝え合えるよう、ペアで追求する。 ・出だしのタイミングをそろえるために、目を合わせる・頭を動かして合図を送るなどの方法を伝える。 ・アドバイスが出し合えていないペアに対して、演奏した後の感想を促す。 ・ペアで考えた演奏方法を学習支援ソフトの楽譜に記録できるよう、配布する。 ・活動が活発なペアを紹介し、広める。 ・中間交流の場を設け、重なり合う音の響きを味わう。
まとめ	3. ペアで見つけたコツを全体に発表し交流する。(演奏もする) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">             ・2つのパートの音がぴったり合うように、相手の音を聴きながら、音量のバランス、ブレスに気をつけました。              ・息の量やタンギングに気をつけることで、リコーダーの音の重なりがきれいにひびくように気をつけました。           </div>	研③ 考えた演奏方法が書かれた楽譜を見せながら発表する。 仲間とよさを伝え合う。
	4. それぞれが見つけたコツを活かしながら、全員で4拍子の演奏をする。 ・違う音どうしが重なってきれいだったね。 ・最後がそろって終わられて気持ちよかったね。 ・振り返りカードに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">違う音と重なるときれいな音になるんだね。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【評価規準】</b>              音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。  <b>【行動観察・発言内容】</b> </div>

# 4年2組算数科学習指導案

## 1 単元名 (4/8)

「計算のきまり」

## 2 指導について

本単元では、( ) を用いた式や四則混合の式の計算の順序、分配法則や交換法則、結合法則などの計算のきまりを理解し正しく計算することと、数量の関係に着目し簡潔に式で表現したり、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えたりすることをねらいとしている。

これまでの数と計算の領域で、四則の計算が用いられる場面を知り、それらを式を用いて表す学習を繰り返してきている。さらに、第2学年では、乗法の交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを学習している。

そこで、これまでの学習を丁寧に振り返りながら、四則混合の場合についての学習を進めていきたい。2、3段階構造の問題があるため、問題場面を正しく捉えられるよう、思考の過程を丁寧に取り扱う。また、本時と次時については、図と式を結び付けて説明することを大切に、視覚的に理解できるようにする。そうすることで、単に計算の順序や計算のきまりを覚えて計算するだけでなく、式で簡潔に表現できるよさ、工夫して簡単に計算できるよさを味わい、具体的な場面で活用できるようにし、次学年以降の小数、分数、さらには負の数への拡張へとつなげる基礎となるように指導していく。

## 4 研究との関わり

### 研究①に関わって

課題を設定する際、「図の中にまとまりが分かるように囲って表すこと」と、「立式すること」の二つについて考えるということを確認しておく。

また、与えられた式からどんなまとまりがいくつあるかを考えて図に示すより、図にかかれたまとまりを数えて、何がいくつあるかを考えて式に表す方が、児童にとっては易しいと考えられるため、まとまりがかかれた図を準備しておき、困っている児童に示して、自分の考えをつくれるようにしていく。その時、すべてのまとまりを作ってしまうので、途中までまとまりを作った図を示すことで、児童がやれそう、やってみたいと感ぜられるようにする。

### 研究②に関わって

何となくまとまりを作ってみただけで、これで式ができるのか分からず手が止まっている児童や、初めから一つの式にするとということにこだわりすぎて、立式が進まない児童がいる場合には、同じ班のみんなで該当の一つの図を見ながら式を考えるように促すことで、相手の考えを読み取ろうとしたり、仲間と共に課題解決を図ろうとしたりすることができるようにする。

班交流では、図のまとまりを指し示しながら話すことで、自分の考えを確かめ学びを深める。全体交流では、式を見て、自分の考えた図を発表したり、他のまとまりに着目した図がないか考えたりして、同じ式でも違う図になることを知り、学びを広げられるようにする。

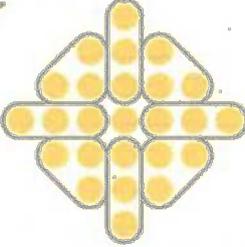
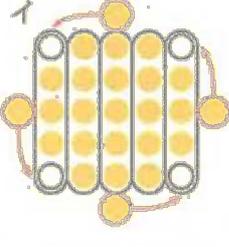
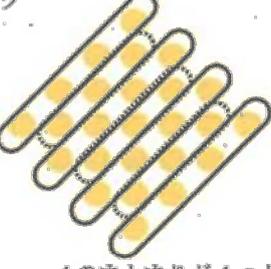
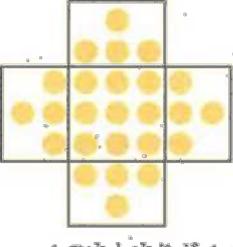
### 研究③に関わって

授業の最後に、再度本時の自分の考えを書き、仲間の考えもノートに書くようにする。視覚化することで、自分が今日分かったことを実感することができ、自分の考えとは違う考え方があることにも気付くことができるようにする。

## 6 本時のねらい

同じ数のまとまりを作ってドットの数を求める式を作る活動を通して、式を見ると、どんなまとまりがいくつあると考えたのかを読み取れることに気づき、図と式を用いてドットの数の求め方を説明することができる。【思考・判断・表現】

## 7 本時の展開 (4/8)

展開	学習活動	指導・援助
導入	<p>1. 問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○はいくつありますか。 いろいろな求め方を考えましょう。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3×3のように、きれいに並んでない。</li> <li>・ まとまりを作って数えたら、簡単に数えられそう。</li> </ul> <p>2. 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 同じ数のまとまりがわかるように図にかき、1つの式に表そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書p.7の上の図を示し、式にすることを確認する。</li> <li>・ 一つずつ数えるのではなく、まとまりを作ると数えやすいことを示す。</li> <li>・ 一つの式に表す学習をしてきたので、それを生かして、一つの式に表すことを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>研① 見通しをもって活動するための指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかなか図に書き込めない児童には、まとまりが作られた図を示し、いくつのまとまりかを教えて、続きの図をかくように促す。</li> <li>・ 考えをもてた児童には、別のまとまりでもできないか考えるように促す。</li> </ul> </div>
展開	<p>3. 追究する。(個人→班)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ア</p>  <p>3のまとまりが8つと ばらが1つで <math>3 \times 8 + 1 = 25</math></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>イ</p>  <p>○を4つ動かすと 正方形になるので <math>5 \times 5 = 25</math></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>ウ</p>  <p>4のまとまりが4つと 3のまとまりが3つで <math>4 \times 4 + 3 \times 3 = 25</math></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>エ</p>  <p>4のまとまりが4つと 真ん中の正方形で <math>4 \times 4 + 3 \times 3 = 25</math></p> </div> </div> <p>4. 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>4 \times 4 + 3 \times 3</math>の式になる図が2つある。</li> <li>・ どの式でも、答えは25になる。</li> <li>・ どの考え方も、○が□つというまとまりで考えている。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>研② 具体物、表、式、グラフ相互の関連を図り、仲間と共に問題解決する活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図にはまとまりがかけているが立式できない児童がいたら、同じ班の児童にみんなで考えるように促す。</li> <li>・ 班交流では、図を見て数を数え、立式しているか見届ける。</li> <li>・ 全体交流では、式を見てどんな図が考えられるかを確かめる。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>研③ 児童生徒が学習した内容を振り返り、自らの学びを実感できる場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で考えた図・式と、仲間が考えたものを一つずつノートに書き、学びを実感できるようにする。</li> </ul> </div>
まとめ	<p>5. 本時の学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求め方を一つの式に表すことができた。</li> <li>・ 式を見て、考え方を読み取れることが分かった。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>求め方を一つの式に表すことができる。また、式から、どのようなまとまりで考えたのかを読み取ることができる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価規準</p> <p>ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を図や式を用いて考え、表現している。</p> <p>【ノートの記事・タブレットの記入内容】</p> </div>

# 5年3組社会科学習指導案

## 1 単元名 (3/6)

「これからの工業生産とわたしたち」

## 2 指導について

社会科「これからの工業生産とわたしたち」の学習では、「自動車をつくる工業」「工業生産を支える運輸と貿易」の学習成果を踏まえ、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、働きを考え、表現することを通して、日本の工業の特色を捉えることをねらいとしている。

本単元では、昔から伝わる技術を生かした産業やオンリーワンの技術をもつ中小企業といった日本の高い技術力という特色と、持続可能な社会や少子高齢化から考えられる労働人口の減少といった工業生産の課題を見据えた新しい技術や仕組みからこれからの日本の工業生産について考える。福井県鯖江市の眼鏡産業と東京都大田区の中小工場によるものづくり、介護ロボットや輸出された鉄道などの技術からこれからの工業生産について考えられるようにしていく。

本単元では、以下のように指導を行っていく。

### 《単元の導入》

製造業で働く人数の変化、国内産と海外産の衣料品の割合について調べることで、「これからの日本の工業生産の発展に大切なものはなんだろう」といった疑問を引き出し、単元を貫く課題を設定する。

### 《単元の展開》

福井県鯖江市や東京都大田区で働く人の思いや願いに迫ることができるような資料を基に、昔からの技術を生かした地域ブランド化や高い技術力による海外からの注文、仲間まわしによる高度な技能を用いた協力体制といった日本の技術力の理由に気付けるようにする。

### 《単元の終末》

これからの日本の工業生産の発展に向けて大切にしたいことを生産者や消費者の立場から考える活動を通して、工業生産の発展を目指すには様々な課題を見据えて、これまでの技術を生かしながら消費者にとっても生産者にとってもよりよい技術や仕組みを作っていくことが大切だと気付けるようにしていく。

## 4 研究に関わって

### 研究①に関わって

導入で鯖江の眼鏡産業の現状に関心をもてるようにするために、前時に行った鯖江の眼鏡が盛んな理由を確認するとともに、現在も鯖江の眼鏡の普及活動を続ける小松原一身さんについて紹介する。また、本時では鯖江市の現状を知るための資料として、眼鏡産業に関わる労働人口の変化と生産額の変化を提示する。資料選択や考えを深めやすくするために、資料の読み取り方や既習事項を使うことも提示し、課題解決の視点を選択しやすくようにする。

### 研究②に関わって

本単元では、三つの視点から課題解決に向かう学習を行うため、事実認識を早め、疑問解決や学びを深めるために小集団での学習を行う。机間指導では、資料の読み取りを深めたり既習事項を使ったりするよう支援し、社会的見方・考え方を働かせるよう支援を行う。これからの日本の工業生産にとって大切なことを考えられるようにするために、鯖江のこれからについて発展や衰退、停滞の三つの視点から考えを深める。

### 【研究③に関わって】

資料から読み取れたことを書いている姿、これまでの学習との比較をしている姿に即時評価を多く行う。また、まとめでは、自らの学びの高まりを自覚できるようするために、課題に対する自分の考えと、分かったことやこれまで考えていたこととの違いを分けて書くように促す。

## 6 本時のねらい

鯖江の労働人口や眼鏡生産数の移り変わりや小松原一身さんの活動について調べる活動を通して、小松原さんが眼鏡の町を100年後まで続けられるようにするために様々な活動をしていることに気づき、優れた技術を続けていくことの課題と日本の工業生産の将来について考えることができる。【思考・判断・表現】

## 7 本時の展開 (3/6)

展開	学習活動	指導・援助
導入	1 鯖江の眼鏡の特色と小松原一身さんが鯖江の眼鏡を盛り上げるためにやってきたことを確認する。	研① ・鯖江に関心をもち、課題意識をもてるように前時の内容と小松原さんの活動をまとめた年表を提示する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>鯖江の眼鏡は昔から続く高い技術力で作られているんだ。</li> <li>眼鏡フェスや眼鏡のブランド化など様々なことをやってきたんだ。</li> <li>眼鏡づくりが盛んなはずなのに、なぜ今も様々なことを小松原さんはやっているのだろう。</li> </ul>	
	なぜ小松原さんは成人式でのメガネ配りに関わったり観光に参加したりして鯖江をさらに盛り上げようとしているのだろうか	研① ・追究の前に、どの視点から追究するか、自己決定の場を設定する。 ・視点を選択しやすいように、事実認識で三つの視点について分からない点について全体で意見を共有し、視点の内容を確かめる。
	2 予想	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分も眼鏡の会社で働いてもっと売ろうとしているから。</li> <li>眼鏡づくりをずっと続けていきたいから。</li> <li>やらないとまた、鯖江市がだれも知らないところになるから。</li> </ul>	研② ・お互いに話しながら資料の読み取りや考えの構築を行えるようにするために、小集団での交流を行う。 ・労働人口や売上げが減り続けてしまうとどうなるのかについて触れながら、課題に向けて考えられるように声をかける。
3 資料や既習事項から課題について考える。		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>1 労働人口の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働人口は一度増えているがまた減ってきているから。</li> <li>働く人が減ったら鯖江の眼鏡づくりが続けられないから。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>2 眼鏡の売り上げの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>眼鏡の売り上げが減っているから。</li> <li>このままだと眼鏡の町鯖江がなくなってしまうから。</li> </ul> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの鯖江について考えるために小松原一身さんのインタビュー内容を提示する。</li> </ul>	
3 小松原さんの話から		
<ul style="list-style-type: none"> <li>職人の数が減ってしまうから。</li> <li>もっと鯖江の町が有名になってほしいから。</li> <li>100年後も続いてほしいから。</li> </ul>	【評価規準】 鯖江の眼鏡産業の人口や生産額は減少している中で眼鏡産業を継続することの難しさと取組について考えることができる。【発言の内容・ノートの記事】	
4 これからの「眼鏡の町 鯖江」は、どのようになっていくのを考える。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>よくなると思う。なぜなら眼鏡づくりがこれから再び盛んになっていくから。</li> <li>悪くなると思う。生産人口が減っていついなくなってしまう。</li> <li>悪くなると思う。儲からないから眼鏡づくりはすべて外国産になってしまうんじゃないかな。</li> <li>そのままだと思う。続けようとしている人がいるので100年続いていくのではないかな。</li> </ul>	研③ ・まとめでは、自らの学びの高まりを自覚できるようにするために、課題に対する自分の考えと、わかったことやこれまで考えていたこととの違いを書く振り返りを分けて書くように促す。	
5 まとめ		
まとめ	<p>小松原さんは現在労働人口や生産額が減ってきている鯖江市で、眼鏡産地としての鯖江を守り、町をにぎやかにしようと活動を続けてきている。</p> <p>高い技術力と歴史、地域ブランドがあるから鯖江は盛り上がっていくのだと思っていたが、たくさんの課題があることが分かった。その中でも多くの取り組みを続けている方がいるからこそ、これからも鯖江の眼鏡は続いていくと思う。</p>	

# 6年2組家庭科学習指導案

## 1 単元名 (3/10)

「献立をくふうして」

## 2 指導について

この題材を通して、家族の一員として生活をよりよくしようと、栄養バランスを考えた一食分の献立について問題を見だし、様々な解決方法を考え、実践を評価改善し、考えたことを表現する力を身に付けさせたい。そのために、児童が自分の食生活に興味・関心をもち、どのように献立が立てられているのか理解していく。その献立が主食、主菜、副菜で構成され、「主にエネルギーのもとになるもの」「主に体をつくるもとになるもの」「主に体の調子を整えるもとになる」食品を組み合わせ一食分の献立となっていることを理解する。一食分の献立作成の方法や材料に適したゆで方、炒め方を理解するとともに、それらに関わる知識・技能を身に付け、献立を構成するための要素、一食分の栄養バランスやおいしく食べるための調理の仕方について、問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善する力を身に付けることをねらいとしている。

そのため、題材を貫く課題を「家族と食べるバランスの取れた食事を作ろう」と設定した。本時では、家族の一員として健康で安全な食生活を送るために、5年生の時に身に付けた栄養素の特徴を生かし、栄養バランスや色どり、好みや季節、調理のしやすさなどの観点から献立を立てていく。またこの題材に入る前の「できることを増やしてクッキング」で学習した調理方法を生かし、献立を立てる構成となっている。

## 4 研究との関わり

### 研究①に関わって

題材の始めに、自分の食生活を振り返る活動を行い、個別の目標をもたせるようにする。本時は、その目標に到達するために、自分の立てた献立を見直す活動を行う。自分自身で何の視点が必要かを確認していくことで個別の学びにつなげていく。また、誰もが栄養面を確認もできるようにタブレット端末で献立の栄養を分類しておき分かりやすくする。献立を改善するための視点が自分の献立に当てはまるのか確認できるようにする。

### 研究②に関わって

班の中で自分の献立と仲間の献立を比べることを通して、自分の献立をよりよくする方法を見つけ、改善することができるようにする。交流する際には、視点が分かるように板書に位置付けておく。自分と違う視点をもっている児童の視点を全体に広めることでより改善する方法を学ぶようにしていく。

### 研究③に関わって

振り返りを書くことを通して、最初に考えた献立に対して今回の学習で気が付いたことをまとめ、「分かった」「できた」「よりもっとこうしたい」という実感をもてるようにする。

## 6 本時のねらい

一食分の献立を立てることを通して、自分の献立の課題に気づき、栄養バランスやいろいろ、好み、旬、調理方法を考え工夫ができる。【思考・判断・表現】

## 7 本時の展開 ( 3/10 )

展開	学 習 活 動	指導・援助
導入	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養が偏った一食分の献立を見る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜が少ないから野菜を取る一食分がいいな。</li> <li>・肉ばかりだから、バランスの取れた献立がいいな。</li> <li>・脂っこそう。</li> <li>・栄養バランスが悪そう。</li> <li>・茶色ばかりだ。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の写真を見せ、どのようなことが課題なのか確認する。</li> <li>・自分の献立の課題をプリントにて確認する。</li> <li>・栄養バランス、いろいろ、味付け、旬、調理方法を見直すポイントを黒板に示す。</li> </ul>
展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 よりよい献立にするために、栄養バランス、いろいろ、好み、旬、調理方法から工夫しよう。</p> </div> </li> <li>3. 自分の献立のバランスを五大栄養素表に記入する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉ばかりだ。</li> <li>・小魚 牛乳のところが足りていない。</li> <li>・野菜がほとんどないから入れないといけないな。</li> </ul> </li> <li>4. 自分の立てた献立を班で交流し、どんな献立の工夫がされているか確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆでた具材をほかの献立に活用し、調理時間を短縮している。</li> <li>・いろいろをよくするために、〇〇な食材を使っていて参考になった。</li> <li>・5年生の時は味噌汁に野菜をたくさん入れたが、メインの料理にもバランスよく入れられている。</li> <li>・〇〇のために作る献立だから、肉は外せないが、バランスを考えると野菜を増やしたい。</li> </ul> </li> <li>5. 交流をもとに改善する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は色が茶色ばかりだったが、ほかの人を見て野菜のにんじんやブロッコリーを入れると色鮮やかに見えたので自分の献立にも取り入れよう。</li> </ul> </li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>研① 自分の献立のバランスについてはタブレット端末で視覚化する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の見直すポイントを5年生の献立から振り返り押さえる。</li> <li>・修正の仕方を確認する。 (加える、減らす、変える)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>研② 視点が分かるように板書に位置付け、班で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の工程を確認する。</li> <li>・料理の具材が偏りがいないか確認する。</li> </ul> </div>
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一食分の献立を立てたときに、野菜が普段少ないと感じていたので、どの献立にも入れるように工夫した。他の人は調理の時間のことを考えて、調理方法も工夫していたので、自分の献立にも取り入れたい。</p> </div> </li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>研③ どのように改善や工夫して献立を見直したかを振り返る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準 一食分の献立を栄養のバランス、このみ、旬、調理方法について考え工夫している。 【プリントの記述・発言の内容】</p> </div>